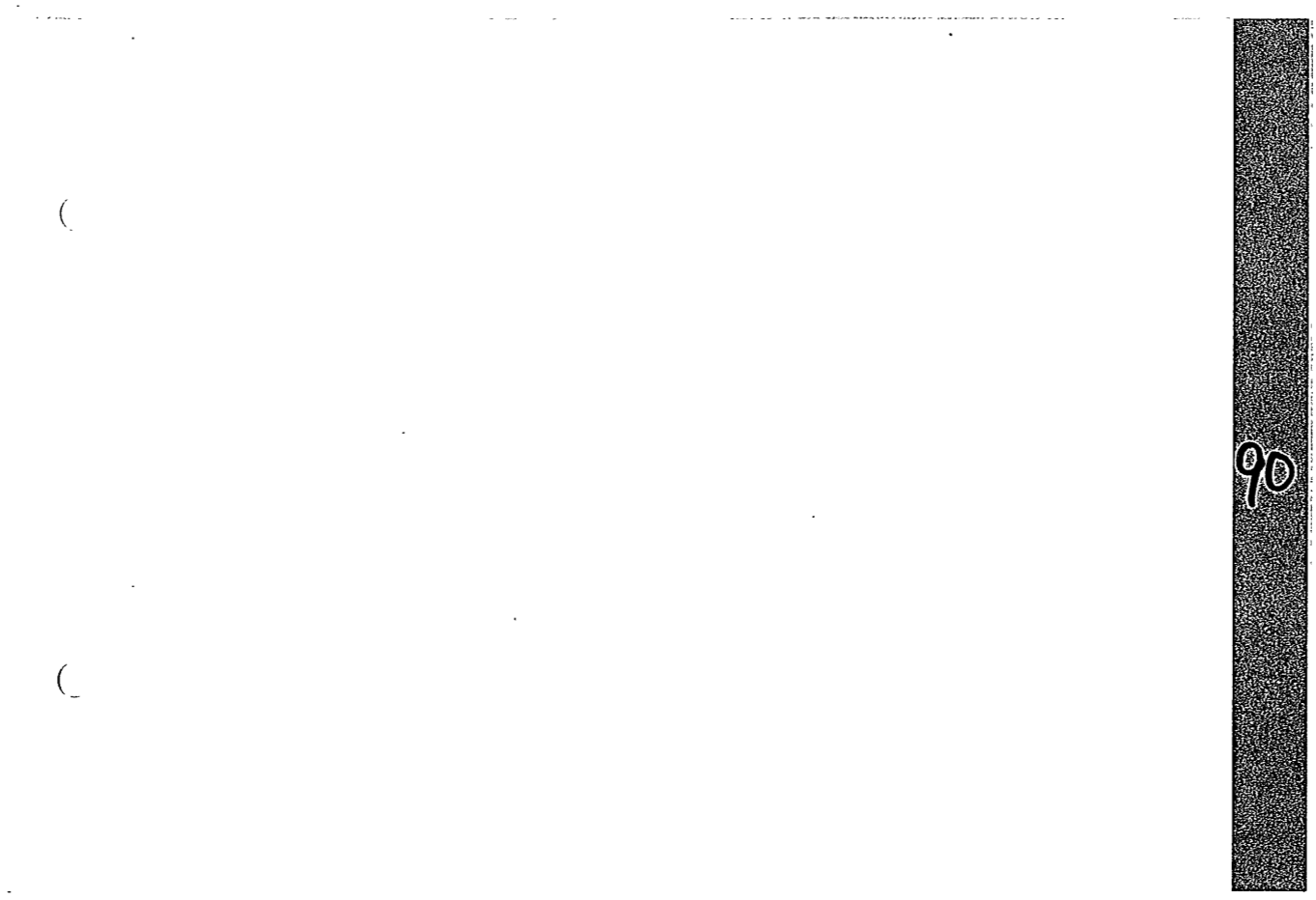


琉球大学学術リポジトリ

1972年の沖縄返還時の有事の際の核持ち込みに関する「密約」に係る調査関連文書No.2

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-15 キーワード (Ja): 核持ち込みに問題, ジョンソン次官 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43897



(回覧番号) 外務省電信案 (分類)

機密表示 (極秘・秘の朱印)	符号表示	総第
(特科)	略平	41394 号
	第 173 / 号	昭和 年 月 日 時 分 秒
		44.9.3 15 56
大至急 (至急) 普通 LTP		発電係

大 臣 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官 房 長	主管 米局長 米次長 米局長	主管局部課 (室) 名 米局長 起案 昭和 44 年 9 月 2 日 起案者 電話番号
------------------------------------------------	-------------------------	------------------------------------------------------

協賛先
参事官 米局長
参事官 米局長

在 米 大使 臨時代理大使
下田 総領事 代理 米局長 大臣 発

電 在 大使 臨時代理大使
報 在 総領事 代理 米局長

件名
沖縄返還空構(の件)

1. 沖縄返還空構に付する 8 月末奉大
臣在米大使との会談並に東京
に於ける事務的社会的経過に付して
は累次の記前より御承知と存
するが、旬日後の奉大臣事務報告

3 33
70

字
清

(※自署内は電信機記入)

(昭和四二・七一改正)

GB-

会議を如何に2 実值的に進行
して總理訪米を成功に導き得る
や熟慮を要する為である。
2. 東京における社会の揺動は前
述して解米する在米大使及び米
大使の米政府に報告あるべき
知。以下の諸長に付しては黄土使より
在米大使に申し出ることか適
考と考へられるので、黄大使がラッセル
駐米に先立ち直しく取計らわれ
たい。
(1) 自由出撃問題に付しては、朝鮮半
島及び台湾に於ける武力攻撃に
関する我々の態度に付して米側も
実值的には充分理解し居ると

GB-3

外務省

認められたが、なお明確なる保証を
 要するの故に、米国内に強く押して
 ある。然し、この日米を念に、極東の安
 全保障の問題は日米兩國の信頼
 関係が最も^(米軍と韓に際しては日米兩國間に完全な)基本であり、その故に
 我方は長期的建設的に沖縄問題
 の片端たる解決を図る為には、現
 行安保条約及び関連取決め9枠
 内で処理することか最良であると
 確信するものである。よって米側と
 しては事前協議の交換台文を修正
 する如き自決水準の予約ないしは
 秘密取決めの如きものを求める考
 を止め、米側から見れば或る程度
 の合規的なリスクを取ることをな

すべきも、^{7E}最^上之を取るとの決断を
 求めるものである。
 四) ヲエトナムに於ては、元々我方は
 南ベトナムが外部からの干渉なし
 に自らの運命を撰択することを可
 能たらしめんとす、米国の基本的
 態度を支持するものであり、~~亦~~
 不幸にして混乱の時期に、我々が
 給^与給^与しあらざる如き事態に陥し
 ては、迅速優先の立脚より、所要の
 軍事行動継続は承認すべしは
 幸であるが、大い^に之を本年秋の
 時期に於て事さらに既示するに
 種々の同意がある治方である。以上の
 認識に於て極程宿米の時期に双

方に満足し得る表現を考へることは可
能である。信する。

(ii) 核兵器の問題は日本の国民感情
に如何にアコモデイトするかの問
題として米国の善処を求めざるの
地ない。

以上の諸点を念め、プラウセルに於いて
最大限とも算と打合せの上、盟約を友
との会談に臨むことを致しなす。

(3)